

# 検査のお話④

## ～腹部エコー検査～

監修 柏市立柏病院 検査科



昨年7月から始まった『検査のお話』シリーズも、ついに第4弾となりました。エコー（超音波）検査は腹部をはじめ、心臓や乳腺など様々な部位で行なっています。その中でも腹部エコー検査は人間ドックの項目に入っていることもあり、多くの方が検査を経験しているかもしれません。今号では腹部エコー検査を特集します。

### ★腹部エコー検査とは？

腹部エコー検査とは、腹部に超音波を当てて主に腫瘍の有無や結石、ポリープ等の異常を見つけ出す検査です。この検査はX線検査のように放射線被曝の心配もなく、検査を受ける患者さんの負担も少ない安全な検査です。検査時間は、状況によって異なりますが、通常10～20分程度です。



### 腹部エコー検査の流れ

- 胸の下からおへその下までお腹を広く開けて、ベッドに仰向けに寝ていただきます。両手は肩より高い位置に置いた状態をとります。
- 皮膚と超音波探触子（プローブ）との間に空気が入らないように、ゼリーを塗り検査を行います。見る臓器によって、息止めや深呼吸をしたり体位を変えたりします。  
（※検査部位によっては多少プローブを押し腹部を圧迫することがあります。）
- 検査終了後、お渡ししたタオルでお腹についたゼリーをよく拭き取っていただきます。  
（※拭き取った後も数分間はベタつき感が残ります。）

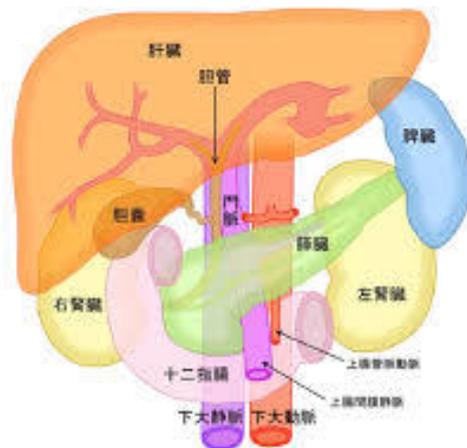
### 検査時の注意

- ・ 食後は、胆嚢が縮んだり消化管内にガスが発生しやすい為、十分な検査が出来なくなりますので、空腹状態で検査に臨みましょう。お水やお茶は飲んでも差し支えありません。
- ・ 膀胱に尿がたまっていないと膀胱内や前立腺、子宮、卵巣などの下腹部の観察は困難になります。検査の2時間前くらいからお水をしないで膀胱内にためておいて下さい。

### ★腹部エコー検査で何がわかるの？

当院の腹部エコー検査では、肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓・脾臓・大動脈・膀胱・前立腺や子宮・卵巣が対象となります。通常の検査では主に各臓器の大きさや形状を検査し、同時に腫瘍や結石、ポリープの有無等を調べます。

又、機器の進歩もあり、従来は検査が困難だった食道や胃、腸などの消化管を検査する場合があります。



## ★異常があると、どのようにわかるの？



### 肝臓

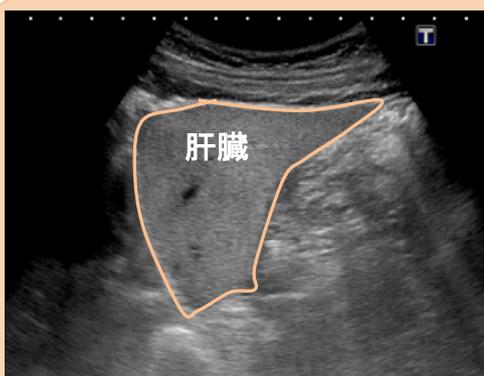


正常な肝臓と腎臓

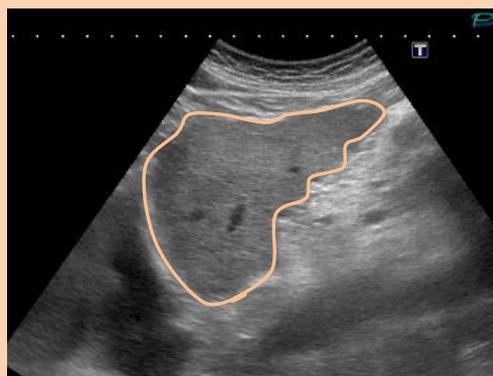


脂肪肝

正常な肝臓と腎臓の色合いはほぼ同じですが、肝臓に脂肪が沈着すると肝臓のエコー輝度が高くなり、肝臓が白、腎臓が黒のようにコントラストがはっきりします。



正常な肝臓



肝硬変

正常な肝臓は表面が平滑で内部も均一ですが肝硬変になると肝臓が硬くなり、内部や表面が凸凹になります。進行するにつれ萎縮し、腹水が出現したりします。



正常な肝臓



肝癌

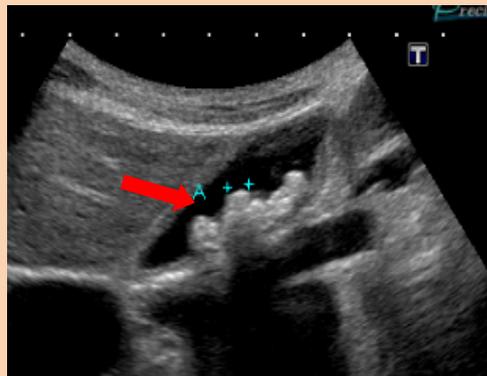
肝臓癌には肝臓自体から発生する癌と他の臓器から転移する癌があります。癌のタイプによっても見え方は様々で、高エコーや低エコー、混在型のもの等があります。



### 胆嚢

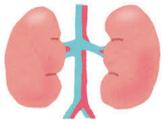


正常な胆嚢

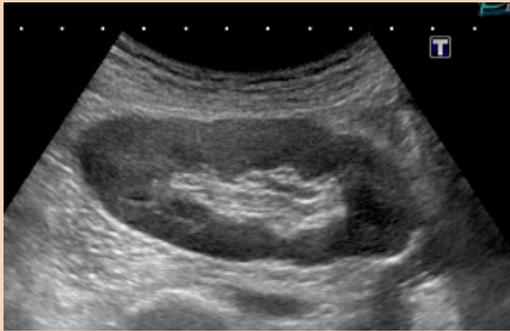


胆石

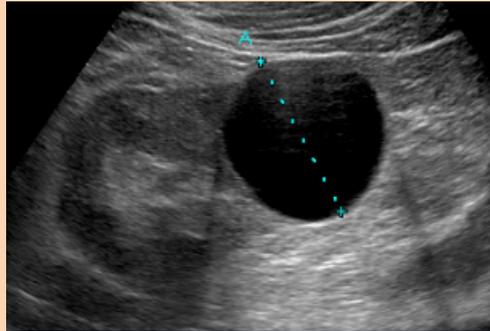
胆嚢内に胆石があると白い塊状に写ります。ポリープと区別する為に、横向きや四つん這いになっていたただき、胆嚢の中を塊が移動するかを確認します。



## 腎臓



正常な腎臓



腎のう胞

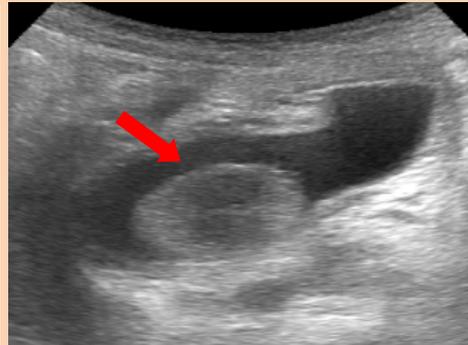
のう胞は腎臓以外にも様々な臓器で見られる液体の溜まった袋状の構造物です。大きさや数は人によって様々で、大部分が先天性であり、害はありません。



## 膀胱



正常な膀胱



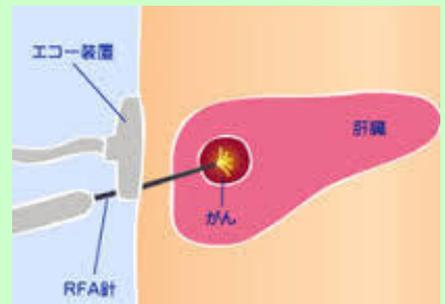
膀胱癌

膀胱内に尿が溜まっていると黒く写ります。癌がある場合は黒を背景に白い塊として描出されます。念の為、体位変換して塊が移動しないか確認します。

## ★腹部エコーを使った当院での治療

### ラジオ波

当院では肝癌の治療において、エコーを使用したラジオ波焼灼療法（radiofrequency ablation；RFA）を行っています。この治療は、腫瘍をエコーで確認し、皮膚の局所麻酔をしたあと、太さ 1.4 mm 位の金属製の針を腫瘍に刺します。腫瘍に針が刺さったら、針の先端から出るラジオ波という熱によって腫瘍を焼く治療です。1 回に直径 3cm 弱の球状を焼くことができ、腫瘍が 2cm 以下であれば 1 回で腫瘍全体を壊死（悪性細胞を死滅）させることが可能です。術前の処置や全身麻酔が不要で術後の負担も軽いことが利点として挙げられます。



腹部エコー検査は、内臓に関する病気の早期発見の手がかりとなります。

気になる症状がありましたら、一度消化器内科へご相談下さい。ご不明な点は検査科までお問い合わせ下さい。